

「努力は実る」

(福岡女子大学 国際文理学部 環境科学科)

皆さんこんにちは。このたび合格体験記を書かせていただくことになりました。私の体験が少しでも皆さんのお役にたてれば幸いです。私がこの受験生活を通して伝えたいことはたくさんあるのですが、その中でも特に伝えたいことを3つ紹介します。

まず1つ目は「質問に行くことの大切さ」です。センター試験の2カ月程前、地理の点数が絶望的で、他の教科も目標の点数に届いている教科はほとんどありませんでした。危機感を持った私は、少しでも疑問に思ったことや、もっと解説して欲しいと思った問題を、すぐ先生に質問しました。1カ月前になると、ほぼ毎日職員室に行っていました。たぶんしつこいと思われていたと思います。しかし、質問に行くようになってから、徐々に自分が成長していくのを感じました。問題を解いていると、「あっ、この問題この前先生に聞いたところだ!」と思うことが多くなったのです。質問をすると記憶に残りやすく、自分で悩むより何倍も効率がいいです。もっと早くから質問にたくさん行っていれば良かった、と思います。

2つ目は「志望校についてしっかり考えること」です。私は一般の前期試験とは別に、公募推薦の試験も受けました。公募推薦にはセンター試験と面接があったのですが、初日の面接の練習では、質問にうまく答えられなかったり、沈黙が続いてしまったりと、心が折れそうでした。なおかつセンター試験の勉強もしなければならず、この時期は本当に苦しかったです。そして推薦の結果発表の日、インターネットに私の受験番号は載っていませんでした。しかし、私はこの面接の練習のおかげで将来の夢や志望校についての関心を高めることができ、絶対にこの学校に行きたいと思うようになりました。曖昧に行けるところを受験しようという気持ちだったら、絶対に最後まで続いていなかったと思います。皆さんも志望校を決めるときは本当に真剣に考えてください。

3つ目は「自分をきちんと理解すること」です。私は、自分が勉強を始めてすぐに成長するタイプではないことを知っていたので、2年生の春休みからツイッターやインスタグラムは消し、受験モードに切り替えました。部活の前や後には展示ホールで勉強しました。夏休みが終わると周りの人も本気を出してきて、睡眠時間を削ってまで勉強している人もいました。しかし、私は睡眠時間をあまり削りたくなかったので、登下校中やお風呂の中でも勉強しました。また、私は一度覚えたことをすぐに忘れてしまうタイプだったので、全ての教科毎にやり直しノートを作り、何度も見返していました。センター試験直前にもそのノートを見返しました。実際にそのノートに書いていたことがいくつも問題になっていました。これは私の勉強のやり方ですが、他にも私の周りには、参考書に付箋をはって書き込んだり、ノートに小さい字で何度も書き込んで覚えていたりする人もいました。それぞれ自分に合った勉強方法があると思うので、自分をよく理解して、それを継続させることが大切だと思います。

この3つが、私が受験勉強を通して最も大切だと思ったことです。ここで、ある先生が仰っていた話で、最も印象に残っている話を紹介したいと思います。その先生は「努力は実る」という言葉の本当の意味について話をしてくださいました。“結果が出てから、今までしてきたことが十分な努力だったのかが分かる。だから結果を出した人は努力をしたのであり、ただやみくもに何かをしても結果が出なければそれは努力ではないのだ。”という内容でした。ただ普通に勉強していてもだめです。目標を決めて、強い意志を持って、コツコツと努力した人が最後は結果を残せるのだと思います。

最後に、私がこの受験生活を乗り越えることができたのは、毎日送迎をしてくださった両親、土日も学校に来て教室を開けてくださり、私のしつこい質問に文句一つ言わず答えてくださった先生方、そして競い合い、励ましあえる友人の存在があったからだと思います。きれいごとではなく、本当に受験勉強をしていると、このありがたみが分かると思います。

拙い文章でしたが最後まで読んでいただき、ありがとうございました。皆さんの健闘を祈っています。